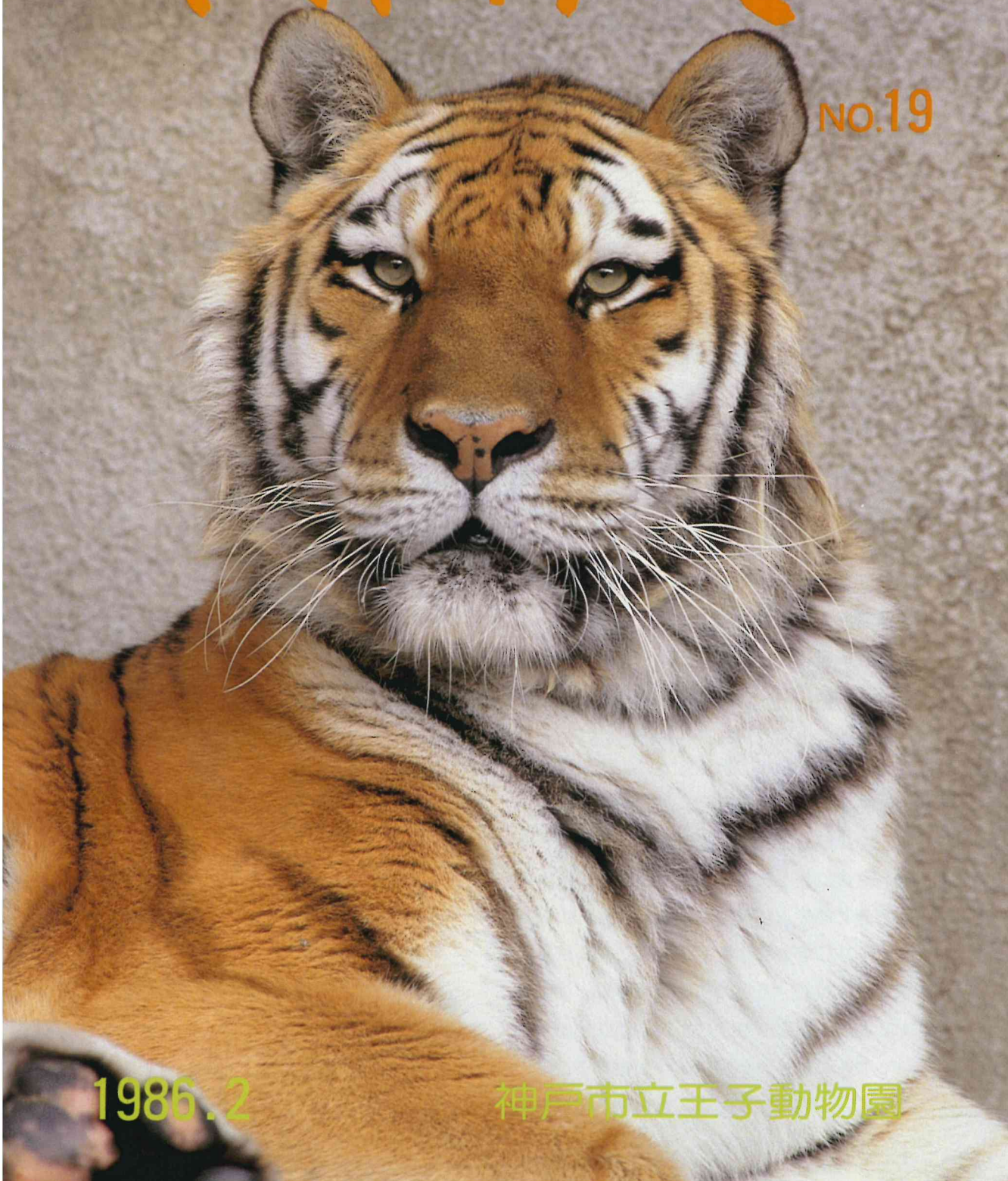


はばたき

NO.19

1986.2

神戸市立王子動物園



面白くない話

2月6日の朝、大阪空港にワシントン条約に抵触するグリーンアロワナ26尾の不正持込があり、税関で留置されているので近畿ブロック内で緊急保護可能な園館を探して欲しい。と連絡を受けた。早速数園館に連絡した結果、須磨水族館が引受けることになり、大阪通商局の手で搬入されたが、折からの低気温のため熱帯魚であるアロワナは大分弱っていた。

これまでにワシントン条約により不正輸入を阻止され、国内の動物園や水族館に緊急保護された野生動物は56年4月から現在まで40件488点にも及んでいる。しかも、正規の手続きで輸入されたものではないので輸送容器が不備であり、そのため到着時には多くのものが健康な状態でなく、短期間に死亡する割合が多い。

商業目的かペット用かは不明であるが、持込んだ当人は税関で摘発されれば直ぐに任意放棄書を提出し、運が悪かったと嘆くだけで何ら罰則はない。後始末をする日動水の園館は非常に迷惑を蒙っているが、しかし、何より哀れなのは不正手段によって持込まれようとした動物たちで、はかない生命を異国の地で終えんしてしまうことである。

その2~3日後のテレビでは、岐阜県と長野県の接する山林で特別天然記念物に指定されている日本カモシカの銃殺場面とカモシカ肉の飲食風景を放映していた。まさに、国辱的場面である。日本カモシカは諸外国の動物学者の注目する日本特産の動物で毎年国際登録までされている飼育下の保護手厚い動物である。近い将来必ずこの反響非難は起って来るものと思われる。山林保護と産業重視の人間のエゴの現われである。桜材を人間が利用

する以前からその森林は日本カモシカや多くの野生動物の棲息地であったはずであり、人間が木材を利用しその再生産のために元の住人である日本カモシカが邪魔になったのである。また、奈良のシカをカナダへ贈る約束をした人がいた。正規なルートでは大いに国際親善に役立つ動物交流であっても、頭越しの話では動物たちの動権無視も甚だしく、関係者の憤まんはあるだろうが、どうせ長いものには巻かれろと実現されてしまうと思われる。

いずれも、人間のエゴのために動物たちが非常に迷惑を蒙った、近頃の話である。

神戸市立王子動物園長 福岡 順三

も く じ

◆面白くない話	2
◆金絲猴滞在記	3
◆動物育児日記	
●リスザルの人工哺育	6
●ショウジョウトキの繁殖	7
◆かわいい動物のこどもたち	8
◆飼育うらばなし	
●アメリカクロクマの行動(歩け、歩け)	10
●アムールトラの血液更新	11
◆動物なぜなぜ問答	
●チンパンジーのお尻、なぜ腫れているの?	12
●サルも風邪をひく	12
◆動物もの知り手帳	
●海で暮す動物たち	13
◆トピックス	14
◆うら表紙	
●とら年版画コンクール特別賞入賞作品	

表紙写真 アムールトラ
(撮影 福田元二)

コウベグリーンエキスポ

きん し こう 金 絲 猴 滞 在 記

昨年7月21日から11月4日まで神戸総合運動公園一帯で、第3回全国都市緑化フェア「コウベグリーンエキスポ'85」が開催されました。このフェアには親善使節として中国の天津市から珍しい動物の金絲猴が2頭展示され、期間中美しい姿とユーモラスな顔やしぐさを披露し、入場者の人気者になりました。折りしも、この期間中にユニバーシアード神戸大会が近くで開催され、外国の若い人たちにもこの珍獣を見て頂くことができ、このフェアを盛り上げました。この金絲猴の飼育管理には王子動物園と天津動物園の合同チームが当り、病気や怪我もなく無事に飼育業務を終え天津動物園へお返しできましたが、この飼育を通じて、貴重な体験を得ましたので、その飼育記録から飼育レポートとして紹介しましょう。

◆2頭のプロフィール

金絲猴は中国だけに住むオナガザルの仲間のサルで、四川省などの海拔3,000mぐらいの山岳地域に住んでいます。大へん数が少なく、中国ではジャイアントパンダと共に第1級の保護動物として手厚く保護され中国以外の国へ出されることは大へん珍しいことです。又、数が少ないだけでなく、全身が金色の毛で覆われサルの中でも最も美しく、さらに、目の周りの青色、上に向けた鼻、ふくれた口などユーモラスな顔立ちが人気を呼んでいます。

今回、神戸に来た金絲猴は天津動物園で飼育



▲仲の良い金絲猴のカップル（左・金金、右・菲菲）
中の2頭で、そのプロフィールは次のとおりです。

○「金金」^{チンチン} 雄、15才、体重20kg

がっしりした体つき、堂々たるタイプ、性格は温順で飼育員には友好的で足や頭に触れることができる。動きはやや鈍いが、飼育員とのにらめっこが得意で頭をかがめながらにらみつける姿は観客の爆笑をかった。又、寝室の板の床を無理に四肢をふみながら走り大きな音を出して人間共を驚かせるいたずらも覚えた。

○「菲菲」^{フイフイ} 雌、8才、体重12kg

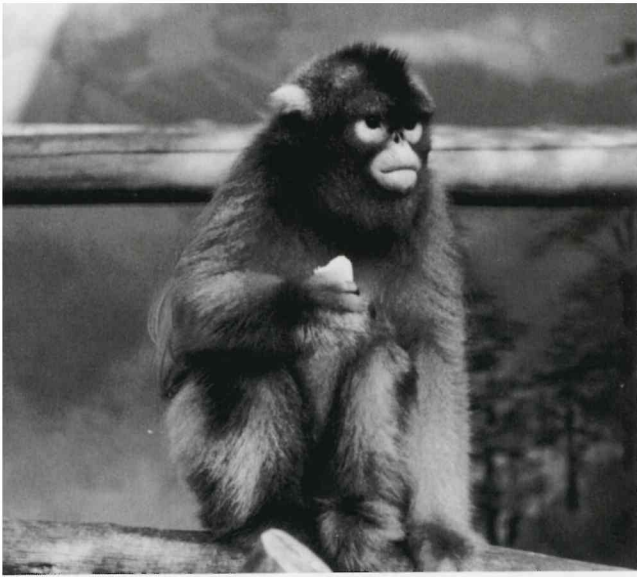
スリムな体つき、身軽で動作は活発、長い前足を巧みに使い天井にぶら下ったり木から木へ跳び移る姿は正に体操の選手、性格はこわがりで飼育員にも人見知りするほどの神経質、でも、甘え坊で雄の金金に寄り添い懐に飛び込むことも多い。

◆到着した時の様子

7月12日早朝、天津動物園で狭いケージに収



◀金絲猴の引渡式（7月15日）



少しこわがりの菲菲▲

容された2頭はトラックで北京空港に向い、飛行機に積み込まれ同日夕刻大阪空港へ到着、機側で降された2頭はすさまじいジェットエンジンの金属音と100名を越す報道陣のカメラに驚いた様子でしたが、2頭共元気で、直ちに宿舎の金糸猴館へ向い無事到着、寝室に収容された2頭は好物のももをもらいご気嫌でした。2日間寝室で慣らした後に屋外運動場へ出しました。運動場はステンレスの金網で囲っていますが、金糸猴はほとんど樹上で生活するため中央に大きな枯木と2本の平行棒を取り付け、背面のコンクリート壁には四川省の山々を描き、床は芝生張りでとうねずの木などを植えました。ところが2頭の金糸猴を運動場へ出したとたん、とうねずの葉を食べ始め、2日間で食べ尽し、フェアオープンの日には枝だけの丸裸の有様でした。

到着してからは2頭は同居させました。大へん仲が良く抱き合ったりお互いに毛づくろいしたり、寝る時も抱き合うなど新婚カップルのようなアツアツムードでした。しかし到着して10日後には早くも恋の季節に入ったため、天津市との約束により妊娠すると危険度が高くなるため、止むを得ず金網で仕切り分離飼育することになりました。それでも2頭は金網越しに毛づくろいや夜は寄添って寝るなど仲の良いところを見せました。金糸猴の恋の季節は意外と長く、結局、11月4日の閉幕までこのような状態が続きました。

◆金糸猴の日課

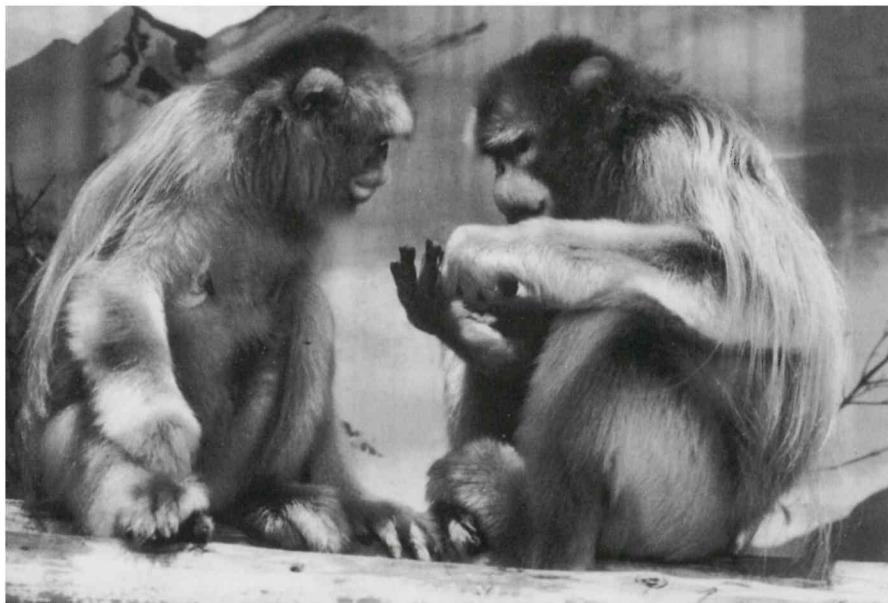
2頭は朝寝坊で、宿直者が朝7時ごろのぞき

ますと目を覚ましますが、眠たそうな目で見つめます。完全に目覚めるのは8時、すぐに外の運動場へ出て樹葉とリンゴの軽い朝食、このころウメーウメーと山羊のような声でお互いに鳴きます。金金は力強く、菲菲は優しい声で鳴き、お互いに会話をしているのでしょう。金金は枯木や天井近くの段にデンと腰を据えています、菲菲は動き回わり運動をします。10時半に主食事でリンゴ、バナナなど果物やキュウリ、ナスなどの野菜、特製のむしだんごなどを食べます。えさを与える時は飼育員が交代で中に入り観客によく見えるよう1つずつ時間をかけて与えます。気温が30℃以上の時は12時ごろ寝室内に入れて涼をとらせますが、9月以降は夕方まで外で過させます。12時にはおやつとしてピーナッツ、14時にはりんごのおやつを食べます。夏の高熱時には金金は涼しい寝室で昼寝をすることが多いですが、若い菲菲は寝室でじっとしておらず運動場へ出てよく遊び観客を喜ばせました。秋になり気温が下りますと2頭とも動きが活発になりよく運動するようになりました。

17時半ごろ夕方の食事には果物や野菜、むしだんごなど手渡しで与えます。与えるものはだいたい同じですが、金金はほとんど好き嫌いなく食べるのに対して菲菲は好き嫌いがあり、むしだんごやとまとは食べません。2頭とも好物はももとぶどうですが秋になりそれらが無くなったため代りにキウイフルーツやメロンを与えましたが、最初は今まで食べたことが無いので警戒して手を付けず、そのうちに恐る恐る食べたところおいしかったのか、次からは奪うよう

▼貫録十分な金金





▲「何をしているの？」(菲菲)
「手に何かついてるんだ」(金金)
楽しそうな2頭の会話

にして取って食べました。

18時半には寢室に入れ、夜食としてくわやとうねずの葉を食べ、お互いに毛づくろいをしながらやがて眠りにつきます。夜は灯りを消しますので監視用のモニターテレビには映りませんが寢室に取り付けた集音マイクを通して聞える音によって金絲猴の状況を判断します。大きな寢息やいびきも聞かれ、又、小便の音が滝のように聞えて驚いたこともありました。

◆健康管理

期間中、2頭共健康状態は良く、菲菲が数回軟便をした以外は全く異常がなく、2頭共体重も少し増えたようです。金絲猴は暑さに弱い動物ですが、到着と同時に真夏を迎え、健康状態を心配しましたが、30℃を越える時には室内に入れる程度で、しかも、室内には冷房機はあったものの乾燥用に用いたのみで金絲猴の居る時は全く使用しませんでした。

しかし、貴重な動物だけに健康管理には十分に気を使い、毎日、ふんや尿の検査、食べ物の量、動き方、鳴き声など細かいところまで観察を続けました。到着した初めは自慢の金色の毛はややくすんだ色でしたが夏を過ぎ秋に入ると次第に鮮やかに輝き、背中の長い金糸は跳びはねるたびに空中になびき、正に天女が舞い下りる様に見えました。

◆その他の動物たち

このフェアーには金絲猴以外に数々の動物が森の国に展示されていました。金絲猴の隣には

リスザル14頭が王子動物園から出張展示され、かわいい姿と素早い動きで人気者になり、8月末には赤ちゃんが誕生して話題になりました。金絲猴館から少し奥へ行った所には果下馬牧場があり、親子3頭の果下馬が王子動物園からの出張、7月末には子馬が暑さでダウンし母馬と共に動物園に一時帰りましたが8月末には回復し再びお目見え、さらに9月中旬からは父馬をお祭り広場へ展示することになり、サラリーマン並に毎日朝出勤

シ夕方帰宅する光景がみられました。さらに、大フライングケージには、コクチョウ、オシドリなど水鳥など13種62羽を放し飼い、観客もケージの中で観察できるなど人と動物のふれあいの場として人気を得ました。

◆おわりに

期間中、200万人以上の人々が金絲猴を見られました。「美しい」「かわいい」「さすが孫悟空のモデルだ」などの声が聞かれ好評のうちに展示を終え、11月6日日航機で約4ヵ月振りに天津へ帰りました。私たちはこの珍しい動物の飼育に際して貴重な体験を得たことこの飼育を通じて天津動物園との友情が更に深まったことに大いに満足しています。

最後に、この動物たちの展示については直接、間接を問わず王子動物園全員が一丸となって当りこの大きなイベントに参加したことに大いに意義があったと思います。また、このような機会を与えて下さった天津市関係者に感謝いたします。(谷岡正之・権藤真禎・田伏与志明)



▲金絲猴の食事(1回分)

動物育児日記

◆リスザルの人工飼育

わたしはリスザルのエポちゃん!

わたしは、ボリビアリスザルの女の子で名前はエポといいます。産みの親はリスザルで、育ての親は人間です。わたしの口のまわりには黒いパッチがあり時々「この子、子供なのにお髭がはえてる」と言われるけど、これ、わたしたちリスザルのチャームポイントなのです。

わたしは、昭和60年8月26日、当園より出張していたグリーンエキスポ会場で生まれました。初めは、しっかりお母さんにつかまっていたのですが、珍らし

いせいか他のリスザルのおばさんたちが、わたしを抱かせてほしいと、群の中でわたしを巡って取り合いになってしまいました。お母さんは、少し気が弱く、わたしを取り戻す事ができなくて、わたしは、たらい回しにされたあげく、何度も床に投げ出されてしまいました。それを見かねた飼育係さんが、わたしを救ってくれました。そして、わたしは生後3日目より人の手で育てられる事になりました。

わたしは、当園の動物病院の暖かい保育箱に入れられ元気が出てきました。飼育係さんは、お母さんの代わりに抱きつくタオルとぬいぐるみを与えてくれました。そして、わたしの小さな口にあわせて、注射器の先にゴム管をつけてミルクを飲ませてくれました。ゴム管はお母さんの乳首に比べて少し堅かったのですが、おいしいミルクがどんどん出てくるので、一度に気に入ってしまいました。2～3時間おきに一日7～9回ミルクをもらい、夜は飼育係さんの家まで連れて帰ってもらいました。たくさんミルクを飲んで、80グラムしかなかった体重も150



グラムとなり、歯も出揃った生後31日めに、はじめてバナナをもらいました。甘くて、おいしく、それ以来バナナはわたしの大好物です。ミルクと平行して、どんどん色んな物を食べれるようになりました。それにジャンプや手を使って食べる事もだんだんうまくなりました。そして生後72日めには、完全に離乳しました。

わたしは、小さい時から指しゃぶりの癖があり、不安になると親指を吸ってしまいます。最近でもこの癖は、なかなか直らないけれど、体重も300グラムになり、飼育係さんは、将来の事を考えて、わたしをリスザルの群に戻そうと思っているみたい。わたしとしては、このまま飼育係さんに甘えていたいだけけれど、近頃、そんなわたしに厳しく、社会復帰のため一日一度リスザル舎へ連れて行かれます。怖くてドキドキします。リスザル舎へ入ると、お母さんはいるけど、知らないおじさんやおばさんがたくさんいて戸惑ってばかり。でも、負けずに頑張って早く群に戻りたいと思います。そして、将来は結婚して赤ちゃんも産みたいな……。

(山本範子)

◆ ショウジョウトキ の繁殖

王子動物園で初めてショウジョウトキが展示飼育されたのは、昭和57年の春でした。南アメリカの熱帯地方に生息するこの鳥は、全体が朱赤色の羽に覆われ、先の細長くなった嘴で、虫、クモ、両生類を食べ、コロニーを作って生活しています。動物園では、アジ、ドジョウ、沖アミ、馬肉の切身を食べています。

昭和59年の春に、フライングケージの中で地上7～8メートルの網の目から伸びたカシの枝に、2組のペアが巣作りを始めましたが、完成させることなく途中でやめてしまったのです。翌年今度は、地上6メートルの所に竹カゴの人工巣を取り付け繁殖期を待ちましたが、その巣には見向きもせずに4月下旬に昨年と同じ場所で巣作りを始めたのです。それは2～3センチメートルの細い枝にオス、メスが共同で作っていくのです。巣は2週間ぐらいで完成させるのですが、その間座り具合を調べては手直し、改良を盛んに行っていました。ある日、メスが巣に座ったまま離れようとしないので観察台からのぞくと、ゴルフボールくらいの卵を必死にあたためているのがわかりました。抱卵はオスとメスが交代で行います。風の強い日などは、ネットと共に巣がゆれて卵が落ちないかと心配しましたが、ケージの内でもゆれることの少ない一番安全な場所を彼らは選んでいました。そして、次々に3ペアの巣作り、産卵がありました。やがて孵化日(約3週間)が近づき、双眼鏡で観察していると、黒っぽい綿毛に包まれたひなが孵化しているを見つけました。細長い嘴の親鳥とちがってひなの嘴は短く、旺盛な食欲、成長の早さには驚かされました。1週間もすると巣のまわりに立ちあがり、くち移してエサをもらうのです。3週間目には、巣離れが見られ、生えそろうていない黒っぽい茶色の羽



をバタつかせて枝から枝へと移り歩くのです。そして、1ヵ月目には体も、嘴の大きさも親と同じくらいに成長します。子育てに懸命だった親鳥は、羽の色がうすくなってしまいます。2ヵ月目には、プールに舞いおりて、水浴したり、自分でエサを食べるようになります。5ヵ月目の10月頃になると、腹部の羽毛がピンク色に変わり、2年くらいで成鳥になるのです。全部で3羽のひなが孵化して元気にケージの中を飛びまわっています。親鳥も冬の間栄養をたっぷりとり、朱赤色のあざやかな羽に生えそろう、今年も繁殖期を待っております。

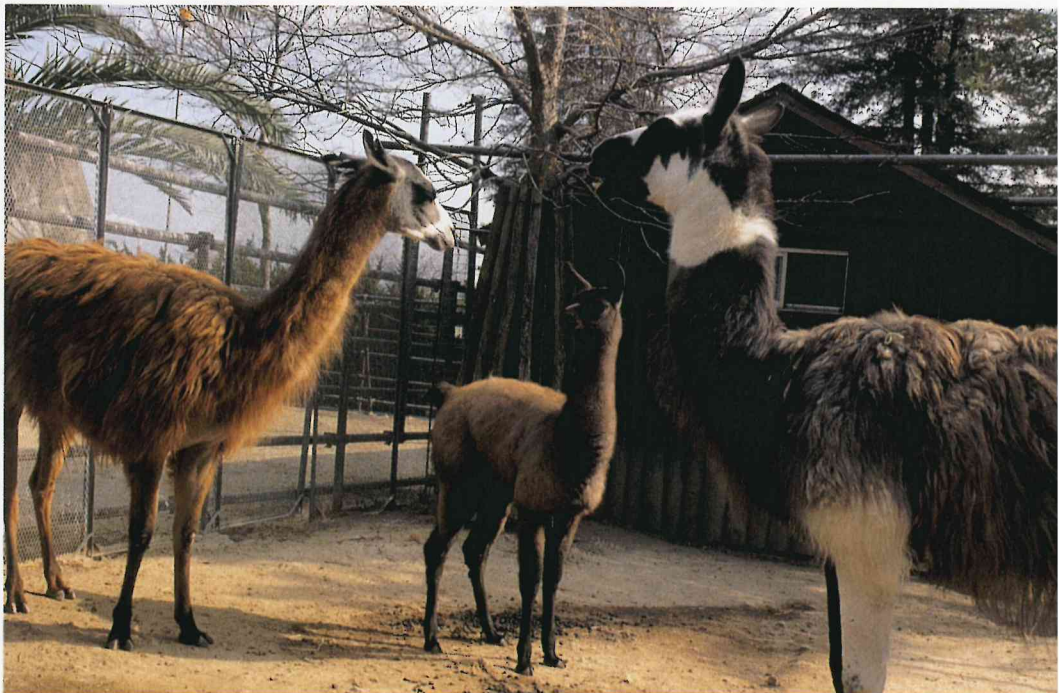
(安福 守)



▲
セグロジャッカル (9月22・23日出生)

かわいい動物の こどもたち

ラマ
(12月11日出生)▼



シンリンオオカミ
(11月11日出生)



▲ シロテテナガザル
(2月10日出生)



◀ ミーアキャット
(9月16日出生)

(撮影 福田元二)

飼育うらばなし

◆アムールトラの血液更新

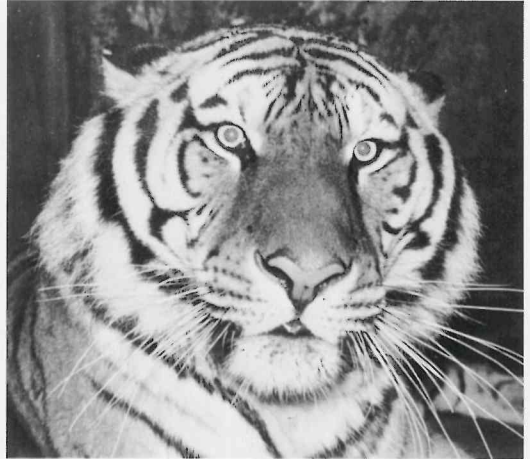
当園では4頭のアムールトラのうちトミと十五郎は姉弟で、成長するにしたがって仲がよくなり繁殖適齢期になりました。そこで近親交配をさけるため、適当な交換相手を探していました。

昨年(2007年)の12月16日名古屋市東山動物園から十五郎(4才)にお嫁さんが来ました。「ナミ」(4才)です。これは当園のサーナとナディアとの間に生まれたトミ(4才)とが交換されたものです。

来園後しばらく、十五郎の隣室で見合飼育をすることにしました。仲のよかった姉トミの姿がなく、新しいお嫁さんナミが突然となりの部屋にいるのを見た十五郎はキョトンとした顔つきで眺めていました。一方ナミは輸送時の麻酔薬が残り体調がもどっていないようでした。

さあ—これからが大変……………

環境にならすため、室内飼育を続けましたが餌をなかなか食べてくれません。来園4日目に初めて餌を口にしました。今度は屋外に出してみることになりました。十五郎を室内に残しナミだけ運動場にだすことにしましたがまったく出ようとしません。次の日も次の日も一歩も出ようとしません。少しでも変わった物音がするとピクッと体をすくめてしまいます。

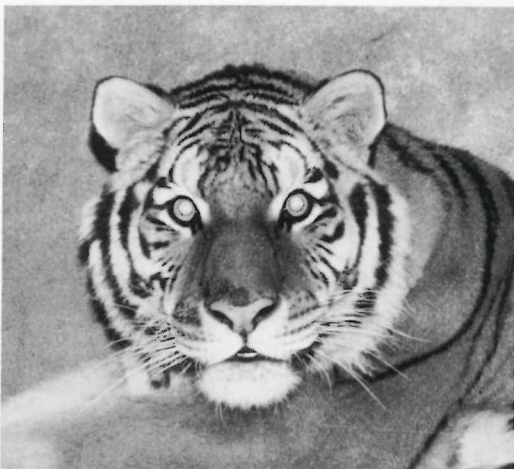


2週間が過ぎたある日いつものようにとびらをあけておいたところ運動場に出ていました。そっととびらを閉め外でのようすを観察することにしました。始めて見る園内の風景にビクビクしながら見まわしていました。お客さんにはよくなれているようで、特に子供さんには関心がたかくじっと見つめていました。

夕食時になり、部屋に入ってくれるかどうか心配していたことが本当になり、ぜんぜん部屋に入ろうとしません。餌を入口から見える場所に置き、食思をさそってみたが、まったくだめでした。この寒空にかわいそうな気がしましたが、しかたなく夜間も出入口のとびらを開けておくことにしました。

くる日もくる日もだめ、部屋の中に入る意思などまったくないかのようです。食欲はあり、外で餌を与えとなおさら中に入らなくなってしまいます。あれこれ考えましたが名案も出ないまま、とにかく一度、オスの十五郎を外に出しナミと一緒にしてみたらとの意見があり実行することにしました。

トラは相性の悪い相手が多いとよく言われます。あの強烈な前足のパンチで一撃のもとにナミがやられては……………「いや、十五郎はおとなしいから何もせんやろ……………」「やるとしたらナ



ミの方がいくで……。』さまざまな意見が出ました。いざ攻撃にそなえて水、ホース、竹棒などを用意し関係者が見守るなか、十五郎が外に出てきました。久しぶりの屋外でしたが案外静かにナミを見つめています。ナミはビクビクして十五郎を威嚇してそばに近づけさせません。目的の一つとして、十五郎が外に出てくるとナミが部屋に入ってくれればと思っていたがこれもだめ、「いったいどうなっているんや……」

両方とも動物園育ち、ナミは名古屋の動物園で人工哺育で大きくなりお嬢さん育ちのようです。人に対してよくなれており、年頃なのに、ハンサムな彼にそっぽを向いている。仕方なく十数分で部屋の中に十五郎を入れました。あせっても仕方がない、気長く様子を見ながらお互いの気持ちが通じ合うまで待つことにしました。

(福田元二)

◆アメリカクロクマの歩け、歩け

53年4月放養式猛獣舎が完成し、北側にはトラ、ライオンそして、南側に面した位置に4種のクマ達が飼育されています。4室続きの西端で飼育されているアメリカクロクマに、最近異常行動が見られる様になりました。異常行動といっても、それはバカだとか、愚かだと言う意味ではありません。また、一般の入園者の方が気付くほどの事でもありません。このクマは9才のオスで愛称を“ジミー”といい、性格は気が荒くなかなか馴れてくれません。餌は1日1回夕方4時頃に、肉食動物用ソーセージ、ドッグフード、パン、リンゴ、サツマイモなど、ほとんど好き嫌いなく食べる雑食性です。さてこのジミー、朝寝室から引戸をガラガラと開けると、戸外の様子をうかがいサーと放飼場に出ます。そして4段ある階段をサーサーと一気に駆け上がります。放飼場の広さは約90㎡で、一階がやや広く二階の高さが3mあり、奥行きは約4mで、横幅が8m余の長方形になっています。放飼場での行動は、太陽と共に移動することが多く、例えば冬の時期には日当りの良い場

所に移動しながら昼寝をしたり遊んだりし終日を過ごします。また反対に夏などは日陰を好みます。この様なパターンが普通なのですがジミーは、2階に上がるとしばらくは背伸び運動をし、そして歩き始めます。飼育下の動物達によく見られる定型化運動の開始なのです。2階最先端に行き8の字定型化運動を繰り返します。約7m間を10ないし11歩で歩き、1分間で90歩もひたすら歩き続けます。午前中で90歩は遅い方で、午後の特に夕餌前の行動を見ていると、なんと1分間に130歩とスピードを増します。およそ7mを11歩は一歩60数cm。60数cm×90歩は60m余。これはスローペースの計算で最高は60数cm×130歩とするならば約1分間に80m余も歩いたことになり、終日総計にするとといったい何km歩く事になるのでしょうか。終日特定されることもないクマ達に遊び道具にでもなればと思ひ、トラックタイヤを吊るしてはいますが、最近ではあまり遊んでくれません。また入園者の多い日には定型化運動の間隔が一定せず、3m余であったり、5mであったりします。しか

し最も頻繁に、最も長い距離を往復するのは休園日なのです。ということは、観客の存在いかななどによる外的要因も多少の影響や変化を与えているとも考えられます。ストレスの解消をしているのですが、足の裏にすり傷などが出来ないか、体の特定部分の毛皮がすり切れないものかと心配です。飼育環境に変化をもたせるなど考え、また、飼育の実際上の必要からもよく観察してみたいと思っています。

(岸田一也)



— 動物 なぜ なぜ 問答 —

●チンパンジーのお尻、なぜ腫れてるの？

「あのお尻、病気じゃありませんの！」
心配ありませんよ。

人間も中学生になる頃、乳房が大きくなり、男子は声が変わり大人の体つきになってきますね。つまり第二次性徴せいじょうちきうといって大人になってきたことを意味します。

チンパンジーも同じで大人になるとお尻が紅く腫れてきます。あれは病気ではなく性皮せいひの腫脹しゅちやう。つまり発情期なのです。



私たちはその腫れや、色調を観察していますが、大きく分けると4つの時期があるのです。

〔月経期〕お尻が全く退縮した頃、3～4日。

〔腫脹前期〕月経の後、次第に性皮が腫れてくる期間、約6日間。

〔腫脹期〕紅く大きく腫れる。15～18日間。この期間に交尾が行われます。

〔消退期〕その後、徐々に性皮の腫れが退縮してくる。約5～6日で完全に退縮する。

こうしたお尻の腫れは5才位（人間では10才）から現れますが、チンパンジーの初潮は7～8才です。つまり、お尻の腫れは病気などではなく生理的なもので、腫れている期間にだけ交尾が行われるのです。

妊娠期間は約7.5月（約32週）。新生児は1,500～2,000gで人間の約2倍のはやさで育ち、小さい頃は顔が白いので可愛いが、大人になると次第に黒くなってきます。

（亀井一成）

●サルも風邪をひく

ゴリラ「えーっ！サルも風邪をひくの！？って人間が言うんだよ」

テナガザル「失礼しちゃいますよね。私達だって今年の冬には、鼻水や咳や発熱で苦しみましたものね」

ゴリラ「風邪をひくことに優越感を持つてるのだろうか。人間だけがかかる高等な病気だと思っているのかもしれない。ほら『バカは風邪をー』って」

テナガザル「とんでもない！あの有名なインフルエンザ・ウィルスは鳥や豚の方に先に見つかっているんですよ。渡り鳥がこの風邪を運んでくるという説もあるのに……」

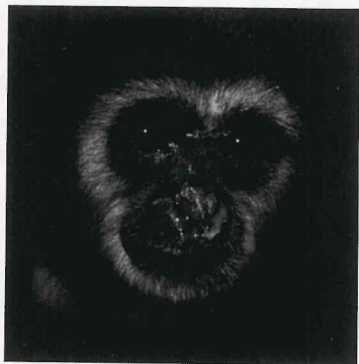
ゴリラ「そういえば、子供の冬かぜの原因になっているウィルスも、チンパンジー君の鼻風邪の病原菌と一緒にだったって後で気がついているんですよ」

テナガザル「ほかにもそんな例はたくさんありますよ。だいたい人間の病気の研究に私達の仲間である動物が使われるのですから、あって当然だけれど」

ゴリラ「もういいかげん、自分達だけが違うんだ！っていう考え方を止めてもらいたいものですよ」

テナガザル「そうそう。もっと冷静になって、人間も動物の一種（少し特殊だけれど）だと考えてもらいたい。そうすれば私達ともう少し仲良くなれるかもしれないよ」

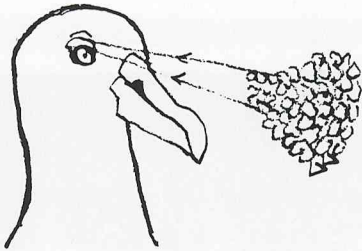
（村田浩一）



動物もの知り手帳

～なんでも知っちゃお！～

海で暮らす動物達「のどがかわかないのかな？」



塩類腺

はてしなく広がる海、干潟ではシギやチドリがむらがって餌をついばんでいます。沖ではカモメが飛びかい、魚影をさがしています。このように海を生活の場所としている鳥達は塩分の濃い水のある環境で暮しているのですが、この塩からい水をのんでも「のど」がかわかないのでしょうか。私達は海水浴に行くと、海水をのんでしまったのどがかわき、ジュースやお茶などの飲んで口のかわきをいやしますね。

さて、海で暮している鳥達にはなにか秘密の装置があるのでしょうか、身体が適応してなんともないのでしょうか。でも、皆さんが動物園に来られますと、カモメ、ウミウやベリカン達、それに塩湖でも暮しているフラミンゴ達が真水のプールでもう何年も元気に暮しています。

海水と同じ塩分のあるプールで飼えば一番良いと思われるのですが、なぜ真水のプールで病気もせず暮せるのでしょうか？

ここで皆さんにとっておきの私達海で暮している者達の秘密の装置のことをお教えしましょう。

水をのむと尿となって、いらぬ水分は腎臓で濾過されて体外へ排出していますね。ところがあまり塩分濃度の高い水分は腎臓の濾過機能がうまく働きません。このため多くの水鳥、特に海鳥の腎臓は塩類腺と呼ばれる特種な臓器の働きによって浸透圧の調整作用で守られているのです。この臓器、塩類腺は眼球の上の部分にあって鼻の孔に通じています。海で暮しているときは、この塩類腺が働き、塩分の特にNaClをここに集めることができるのです。ここに集められた塩分濃度の高い水（5%の濃度）は鼻の孔に出てゆき体の外へすてられます。まるで尿の出口が2つあるみたいですね。

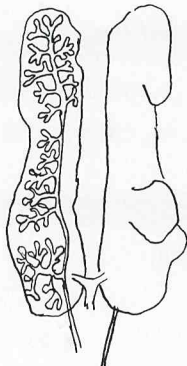
それから腎臓の構造も人や犬、猫などと較べますと図のように真水をのんで暮している動物達は1つの腎臓に一つの構造があるだけですが、鳥達のは一ヶの腎臓の内部に無数の人や犬、猫と同じ構造のものが集まっているのです。

もう一つ教えましょう。北極熊やアシカ、アザラシ達、海で暮している動物達も鳥の腎臓ほどではありませんが、多くの腎臓の寄り集まりとなっています。

このように海鳥達は濃い塩水を塩類腺で体外に出し、真水をのんで暮す動物達と少しちがった働きのできる腎臓があるから、平気で海で暮せるのです。

しかし、動物園で暮している海鳥はどうなのでしょう。身体の臓器の働きは本当に不思議ですね。この塩類腺は塩分の含まれていない水で暮していますと、お休みしますので塩水のない池や川でも十分に暮すことができるのです。（権藤真禎）

腎臓のかたち（大きさはちがう）



カモメ



北極熊



犬

トピックス (60年7月～61年1月)

◆第15回サマースクール開催 7月25日～30日

テーマ：シンリンオオカミとコウノトリ。

内容：人工哺育の武蔵とクチバシを折り、人工のクチバシをつけたコウノトリの話題を中心に、165名の市内小学生が受講しました。(写真▶)



◆こうべの動植物園共同企画行事実施

神戸市内の5施設（王子動物園・六甲山牧場・森林植物園・須磨離宮公園・須磨水族館）が、共同して8月17日、動植物園めぐりバス、7月20日～8月31日の期間、スタンプテリングを実施。10月には、こうべ動植物園ガイドブックを発行しました。

◆グリーンエキスポ'85出展の金糸猴返還



7月20日～11月4日の期間、総合運動公園で開催されたグリーンエキスポ'85に出展していた金糸猴のペア（チンチン、フェイフェイ）を博覧会終了後の11月6日に借入先の天津市へ返還しました。

(◀写真)

◆トラ年賀状版画コンクール開催 10月～1月

昭和61年のエト動物、トラの賀状版画を募集、1,730点の応募作品の中から137点の優秀作品を選出し、1月15日、三宮勤労会館で表彰式を行いました。(優秀作品写真/裏表紙)

◆出生動物・死亡動物・新着動物

〈出生〉		雄：雌：不明	雄：雌：不明
●セグロジャッカル	9/22～23	3：1：0	●シンリンオオカミ 11/11 5：2：0
●ミーアキャット	9/16	0：0：3	●ラマ 12/11 0：1：0
●リスザル	8/26	0：1：0	●コクチョウ 1/11 0：0：2

〈死亡〉

●カバ（出目男） 9 / 15

小腸に軟式野球ゴムボールがつまり、異物性腸閉塞をおこし死亡。出目男は、妻・茶目子との間に10頭の子をもうけていました。なお、出目男の父親も、ビニール袋などをつまらせ異物性胃炎で死亡しており、親子2代の悲劇でした。

〈新着〉 12 / 5

●ヒオドシジュケイ

●ベニジュケイ

◆アムールトラのトレード 12月16日

当園で出生したアムールトラのトミ早と名古屋市東山動物園出生のナミ早とを、血液交換をはかるためトレードしました。

◆動物科学資料館建築工事進行中

昭和62年3月オープン予定の動物科学資料館の建築工事が、着々と進んでいます。展示の内容もほぼ決まり、入園される方々に十分満足していただけたらと思います。どうぞ、御期待下さい。（榎原忠史）

松竹梅の寄せ植え

桜の内の庭は静かで、紅い実のなるナンテンの木、モチの木にときおりめじろ、シジュウカラ、ヒヨドリが訪ずれてきたりします。

園内は、3月中旬には4,000株のパンジーの花が、4月中旬にはチューリップや700本の桜が満開になり、まるで銀世界のような感じです。これらは、市民のための静的レクリエーションの場であり、被害、障害のない素晴らしい環境を維持するため、園内管理に努力しています。（塩田俊夫）



葉ボタン白100本、赤50本

おかめササ70株、黒松の木1本

梅の木1本、ナンテンの木3株

とら年賀状版画コンクール特別賞入賞作品



上段(右)より

神戸市長賞
高倉小・6年……………岩井須美子さん

神戸市立王子動物園長賞
御影高・1年……………稲葉誠一郎さん

神戸新聞社賞
神出中・3年……………永田智子さん

下段(右)より

サンテレビジョン賞
神戸市東灘区・一般…小野田みや子さん

神戸市教育委員会賞
御影高・1年……………徐 旺さん

神戸王子動物園協会賞
板宿小・1年……………枝広ゆかさん

神戸市動物愛護協会会長賞
木津幼稚園……………飯貝夕紀さん

◆編集後記◆

はばたき19号をお届けします。昨年は、カバの出目男が、腸にゴムボールや石をつまらせ、異物性腸閉塞をおこし、死亡しました。この出来事によって、今こそ人間は、動物とのかかわりを真剣に考える必要にせまられました。出目男の死を無駄にしないためにも、一緒に考えてみようではありませんか。(編集室)



はばたき 第19号

昭和61年3月15日発行

編集：神戸市立王子動物園
TEL. (078)861-5624

発行：神戸王子動物園協会
TEL. (078)801-5711
神戸市灘区王子町3丁目1

印刷：梶原出版印刷合資会社